

2022年 8 月 18 日 第2485回例会
8 月 第 2 例会

RIテーマ:IMAGINE ROTARY
「イマジン ロータリー」

本年度会長テーマ
「原点回帰－親睦と職業奉仕－」

「会員増強・新クラブ結成推進月間」「平和月間」

◆ 会長時間 ◆

新原会長



当クラブでは8月を平和月間と定めており。本日は平和例会という位置づけになります。私は最近まで、「原爆の日」や片仮名の「ヒロシマ」等を形式的なものとしか受け止めていませんでした。それらがどうも過去にこだわり、後ろ向きなイメージだったからです。「それは置いておいて明るい未来の平和」のことだけ考えれば良いと思っていたのです。しかし、被爆者である父親が80を過ぎて、同級生と体験記をまとめて、それをきっかけに語り部を始めたり、当クラブの50周年の時に原爆慰霊碑に関連する事業に携わったり、昨年の例会卓話における長谷川 行信会員の体験談を聞くなどして、本日の卓話のテーマでもある「ヒロシマをつなぐ」ことの必要性を意識するようになりました。事実を実体験として語れる人は年々少なくなってきました。しかし事実を埋没させることはあってはならないと考えるからです。

ロシアのウクライナ侵攻や中国と台湾の問題のように、国際政治の場では、国家の利益のために武力による解決を目指そうとする動きが頻繁に見られます。国家間では、ロータリーが標榜する「利己と利他の調和」を図ることは大変困難なことのような気がします。しかし、世界の200以上の国と地域に100万人以上のロータリアンを有するロー

タリーは、究極的な世界平和の実現を目的として、市民レベルで声を上げることができる団体です。国際政治が超現実的な場とするならばロータリーは理想を追求する場なのかもしれません。RIが7つの重点項目の最初に「平和の推進」をもってきたのは、世界情勢の中で、RIがこのような役割を果たそうとする姿勢の表れなのだと思います。

8月の「平和月間」では、世界で最初の戦争被爆地「ヒロシマ」の市民として歴史の現実を見つめなおし、未来の平和に思いを馳せたいと思います。

● 委員会報告

✳ プログラム・出席委員会

出席報告 井原君

本 日 (8月18日・木曜日)

会員数	85名	出席者	71名
欠席者	14名	ご来客	0名
ご来賓	1名	ゲスト	0名
		計	72名

4週前の例会2022年7月14日・木曜日

出席率 100%



✳ プログラム・出席委員会

熊本委員長

10月16日(日)、周南にてRI第2710地区 地区大会が開催されます。皆様奮ってのご参加をお願いいたします。

✳ 親睦活動委員会

山縣副委員長

9月19日(月・祝) 家族会(野球観戦)のご案内

● 同好会報告

紫友会

小宇羅世話人

13日に行いました、紫友会8月例会の成績をご報告いたします。薄曇りで蒸し暑さの残る天候でしたが、途中豪雨と激しい雷による中断もあり、メンタル面の強さを問われたラウンドを制したのは、OUT33 IN41 グロス74 NET 65.9の吉田(大)君がバスグロで優勝されました。2位にはグロス82 NET66.7と、素晴らしいラウンドを披露いただいた金本君がシニア優勝とともに勝ち取られました。3位はグロス81 NET68.4の中村(光)君、ブービー賞はゴルフに目覚めた途端、季節外れの冬眠に入った松岡(輝)君でした。本年度から始めたシングルハンデプレイヤーによる、スタート前レッスンを受講した会員が、今回も上位に食い込んでおります。次回のレッスンテーマは穴戸コーチによる「ランニングアプローチ」です。詳しくは9月例会案内に記載させていただきます。その他、希望レッスンテーマがございましたら、ぜひ世話人までお申し出くださいますよう、お願いいたします！



● 会員記念日

祝 連続出席100% (4名)

中村(哲)君 (32年)	川西君 (32年)
上田君 (22年)	村上(健)君 (6年)

● スマイルボックス

SAA 田中副委員長

長谷川(行)君 (自主申告・金一封)

コンクリート二次製品製造の㈱ナガ・ツキは、教育施設に物品を寄贈されていることを前回ご紹介しましたが、今回も自主申告をいただきました。

これからも順次、市内の保育園、小中学校等々、7施設への物品寄贈を予定されています。

長谷川(行)君と㈱ナガ・ツキの益々のご発展を祈念しております。

川西君

赤い経済レポート7月21日の記事からです。創業60周年を迎えたトータテグループは、地域貢献活動の一環として、プロゴルファーを目指す女性のアマチュアゴルファーに、試合経験を積んでもらう目的で、「第1回住まいのトータテレディースゴルフ トーナメント」を7月16日に賀茂カントリークラブで、またジュニアの育成の為に「住まいのトータテ ジュニアレッスン会」を7月30日にそれぞれ開催されました。世界で戦える女子プロが誕生するのが楽しみです。川西君とトータテグループの益々のご発展を祈念しております。笑顔でご出宝をお願いします。

瀬崎君

青い経済レポートの記事からです。社団法人広島県住宅産業協会の理事長の改選が17年ぶりに行われ、このたび、広島電鉄常務不動産事業本部長の瀬崎君が理事長に就任されました。「西風新都グリーンフォート・そらの」の開発や八丁堀のオフィスビル「スタートラム広島」の建て替えにも関わられ、「何事も人のせいにならず、納得できるまでとことん突き詰めるのが信条です。」とインタビューに答えられています。広島県内の住宅産業の活性化に邁進される瀬崎君と、広島電鉄グループの益々のご発展を祈念しております。笑顔でご出宝をお願いします。

武田君

「日報」という業界誌の記事から。中国地方整備局 山陰西部国道事務所が山口県阿武町で整備を進める山陰道の「木与防災事業」のうち、最も長い、木与第一トンネル工事、1972メートルに及ぶトンネル工事の安全祈願祭が工事を担当する戸田建設の主催で開かれました。同社広島支店長の武田君は、「社会的意義の高いトンネルを施工でき、大変に光栄に思う。品質管理、安全第一に留意しながら工期内の完成に万全を期す」と、抱負を述べられています。

武田君と戸田建設の益々のご発展を祈念しております。笑顔でご出宝をお願いします。

紫友会

紫友会 8 月例会の結果から。

優勝の吉田(大)君、ベスグロと併せてトリプルで、準優勝の金本君は、シニア優勝と合わせてダブルで、3 位の中村(光)君もご出宝をお願いします。ブービー賞の松岡(輝)君は、次回頑張るということでご出宝をお願いします。



■ 卓 話



原爆詩朗読 「ヒロシマをつなぐ」

被爆体験記 朗読ボランティア

山田 敦子 氏

皆様、本日はお招きいただきましてありがとうございます。只今ご紹介いただきました「朗読ボランティア」として活動しております山田 敦子と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

さて、1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、この広島のまちに人類史上初めての原子爆弾が投下されてから77年を迎えました。8月6日には、きっと皆様も原爆で亡くなった方々の御霊を思い、そして世界の平和を祈ってくださったのではないのでしょうか。実は私の母は被爆者ですが、原爆については多くを語ろうとせず「言葉にはできないのよ」と言うばかりでした。被爆者の方は「当時を思い出すのが辛い」「自分だけが生き残ってしまった」「あの時助けてあげることができなかったのが申し訳ない」と辛い思いを抱えながら生きて来られた方もいらっしゃる多くを語ろうとしない方が多いのが現実です。

しかし、そんな中でも「広島で起きたことを忘れてはいけない」「伝えて行かなければ」という思いから被爆体験記や原爆詩を残してくださった方がいらっしゃいます。今日は、その中から原爆詩を3編読ませていただきます。

現在、ロシア・ウクライナの紛争の様子が毎日画面から流れて来る今だからこそ、改めてここ広島で起きた事を知り、核兵器や平和について考えなければいけない時なのではないのでしょうか。今日は皆様にとって、平和を考える大切な1日となりますように心を込めて読ませていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、聴いていただきたいのは「皮膚のない裸群」です。被爆した歌人 山本 康夫さんは当時13歳の息子さんを亡くしています。短い生涯を閉じて行く息子を送る父と母の気持ちを是非、皆様想像してみてください。

<朗読> 「皮膚のない裸群」

壊れた家の中で息絶える姿。

「お浄土には戦争はないね」という言葉には戦争のない世界を願う気持ちが伝わってくる詩です。

次に少し長い詩を聴いて下さい。当時、広島女子高等師範学校 附属山中等女学校の16歳だった作者 林 幸子さんは爆心地から2.5Km、学徒動員先の三菱重工分工場 己斐工場で被爆しました。ピカッ！と光ったその瞬間、ドーンと大轟音が台地を揺るがし飛び散ったガラス片で重傷を負いました。その後、爆心地近くの自宅を目指して廃墟と化し、全身が焼けただれた人であふれた街をさまよいました。翌日の7日に父 惣一さんと再会しますが、母 シズ子さんと弟 祐一さんは自宅の下敷きになり炎に巻かれて死んだと聞かされます。遺骨を探しに行くと、祐一さんはシズ子さんの傍で半分骨になり内臓が焼け残っていました。軽傷とみられた惣一さんも髪が抜け、身体中に斑点が現れ息を引き取ります。

<朗読> ヒロシマの空

1949年頃から原爆詩人の峠 三吉さんらと活動し詩を通して反戦平和を訴え続けた林さん。この詩には、直接的な表現はないものの無差別攻撃の悲惨さや原爆症と言った被害の特徴が伝わります。そして、家族を失った悲しみは戦争や原爆を知ら

ない世代の子ども達にも共感してもらえないかと思います。林さんの手記にはお父さんの火葬の様子も綴られています。

まだ焼けていない父の姿が見える。私ははっとして目を反らし青空に上る白煙を見つめた。骨箱に入り切らない骨を雑木林の小屋に運び「お父さん、ごめんなさい」と無造作に積まれた遺骨の山に向かって合掌した…と記されています。そして、「自分が生きて来た軌跡を書き残す事が、この先何かのお役に立てるのではないか」とも書き記しています。

そして、最後にもう1編。

焦土と化した街の片隅で、命がけで取り上げられた赤子がいました。ご存知の方もいらっしゃると思います。原爆詩人 栗原 貞子さんの「生ましめんな」です。

原爆投下2日後の8月8日の夜、多くのけが人が避難していた広島貯金局の地下室で一人の女性が産気づき、被爆して40℃近い高熱があった助産師が名乗り出て赤ん坊を取り上げました。

＜朗読＞ 生ましめんな 栗原 貞子

こわれたビルディングの地下室の夜だった。

原子爆弾の負傷者たちはローソク1本ないくらい地下室をうずめて、いっぱいだった。

生まぐさい血の匂い、死臭。汗くさい人いきれ、うめきごえその中から不思議な声がきこえて来た。「赤ん坊が生まれる」と言うのだ。この地獄の底のような地下室で今、若い女が産気づいているのだ。

マッチ1本ないくらがりでどうしたらいいのだろう人々は自分の痛みを忘れて気づかった。と「私が産婆です。私が生ませましょう」と言ったのはさっきまでうめいていた重傷者だ。

かくてくらがりの地獄の底で新しい命は生まれた。かくてあかつきを待たず産婆は血まみれのまま死んだ。

生ましめんな

生ましめんな
おのす
己が命捨つとも

出典：「たった一発の爆弾でヒロシマ20万人、ナガサキ10万人が死んだ。」
著者：労働教育センター編集部

赤ん坊が生まれた時は暗がりに光が差し、そこにいたみんなが傷みに耐えて喜んだそうです。へその緒は裁縫ばさみで切り、焼けたトタンをたらいにして産湯に浸からせたと言います。「生ましめんな」という言葉には新しい命が生まれるという意味。そして、平和が生まれるという願いが込められていると言われています。

皆様は、この地球上に存在する核弾頭の推定保有数をご存知でしょうか？今年1月現在で「12,705発」とされています。存在するということはいつ使われてもおかしくないということです。1発の原子爆弾により無差別に尊い命が奪われる、大切な人を失う、その痛みを二度と繰り返してはいけません。だからこそ、私達はここ広島で起こった事を決して忘れてはいけません！1人でも多くの人に広島で起こった事を知って欲しい！そして、被爆者の皆さんも願った核兵器や戦争のない平和な世界をつくる為、「ヒロシマの思いをつないで」行かなければいけないのではないのでしょうか。

私も非力ではありますが、この朗読ボランティア活動を続けて行きたいと思っています。どうぞ皆様もお力をお貸しください。1人でも多くの人に伝えていただきますよう、そして平和への思いを大きく広げていただきますようお願い申し上げます。結びとさせていただきます。



● 卓話予告

日時	テーマ
9/1(木)	「私の職業奉仕感」 新原 靖 会長

広島西RC

検索

例会日・木曜日 12:30～13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 新原 靖
幹事 古本 竜一

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp
作成・会報雑誌・広報委員会